

本书由上海外国语大学教育发展基金会“海富通基金”资助出版

陆 洁◎著

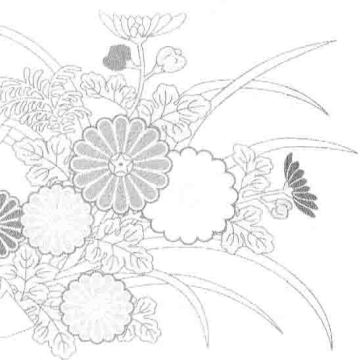
日语连体修饰节中 体表达的研究



上海交通大学出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS



本书由上海外国语大学教育发展基金会“海富通基金”资助出版



陆 洁◎著

日语连体修饰节中 体表达的研究



上海交通大学出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS

内 容 提 要

本书吸收了众多先行研究的成果,通过句末对比的方法,在分析和整理了连体修饰节中各个体表达形式所表示的体的意义的基础上,从构句要素和语用的两大方面全面而系统地探讨了各个体表达形式的使用受到了哪些制约的问题。

本书的这些研究成果都可以运用到日语教育中去,相信比较适合从事日语语法研究的研究生或者教师阅读,尤其是以初级学习者或中级水平日语学习者为对象的站在第一线的教育工作者。

图书在版编目(CIP)数据

日语连体修饰节中体表达的研究/陆洁著. —上海:
上海交通大学出版社,2013
ISBN 978-7-313-09990-7

I. ①日… II. ①陆… III. ①日语-语法-研究
IV. H364

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2013)第 134011 号

日语连体修饰节中体表达的研究

著 者:陆 洁

出版发行:上海交通大学出版社

邮政编码:200030

出 版 人:韩建民

印 刷:凤凰数码印务有限公司

开 本:880mm×1230mm 1/32

字 数:342 千字

版 次:2013 年 10 月第 1 版

书 号:ISBN 978-7-313-09990-7/H

定 价:28.00 元

地 址:上海市番禺路 951 号

电 话:021-64071208

经 销:全国新华书店

印 张:9.375

印 次:2013 年 10 月第 1 次印刷

版权所有 侵权必究

告 读 者:如发现本书有印装质量问题请与印刷厂质量科联系

联系电话:025-83657309

本书属于上海外国语大学日语重点学科建设规划项目“日语句中‘体’的使用——与句末‘体’相比较”以及上海外国语大学青年科研创新团队项目“基于日语学习者语料库的二语习得研究”的研究成果。本书的出版获得上海外国语大学海富通资助出版奖的资助,在此深表感谢!

前 言

现代有关日语体的研究非常多,涉及日本标准语、方言、古文的研究,既有体本身意义和使用的理论研究,也有二语习得的实证方面的研究。这些研究的内容更为细致,研究的范围也日益扩大。但是,关于连体修饰节中体的研究相对较少,与句末对比的研究就更加不多见了。本书吸收了众多先行研究的成果,通过句末对比的方法,在分析和整理了连体修饰节中各个体表达形式所表示的体的意义的基础上,从构句要素和语用的两大方面全面而系统地探讨了各个体表达形式的使用受到了哪些制约的问题。

本书在博士论文《連体修飾節におけるアスペクト表現について》的基础上进行了修改,由七大章节构成。其中,第二章分析整理了体的意义,第三章、第四章、第五章分别从动词、被修饰的名词性成分和副词性成分的三个构句要素入手,第六章从语用角度入手,探讨了其使用的制约。

本书在三个方面做了较大的努力和发展:第一,比较完整地对接连体修饰节中体的意义进行了分类,弥补了此前主要围绕句末的体的意义展开的研究,而很少有系统的关于连体修饰节中体的意义的研究。在体的意义的分类方面,根据连体修饰节中体的意义的特性,区别于过去句末的研究,将完成相的非过去和过去区分开来,分别从非过去完成相、过去完成相和继续相三个方面进行了详尽的分类。第二,对接连体修饰节中体表达形式所受到的使用制约进行了系统完整的分析,弥补了此前只有零星的研究,没有形成体系性研究的空白。第三,进行了连体修饰节与句末的对比研究。只有通过对比研究才能发现连体修饰节与句末的差异,才能进一步探求引起这些差异的原因。这样,较立体而全面地呈现了连体修饰节中体的使用所受到的制约。

本书的撰写始终秉承导师皮细庚教授的教导,要做对日语教学有价值的研究。本书的这些研究成果都可以运用到日语教学中去,相信比较适合从事日语语法研究的研究生或者教师阅读,尤其是以初级学习者或中级水平日语学习者对象的站在第一线的教育工作者。

回顾偶然间接触这个课题,三年的博士课程学习和博士论文的撰写,以及完成答辩,获得博士学位至今又过去的两年,对体的研究越是深入就越是感到今后要做的工作还有很多很多。值此出版之际,真是感慨万千。那时候,反复研读先行研究仍深感无法完全领悟其深意的资料收集阶段,一次次长时间的

讨论阶段,废寝忘食的撰写阶段,都历历在目。同样在这个过程中始终陪伴着走过来的就是导师皮细庚教授。大到定题目,文章框架,小到一个例句都逐字逐句的讨论斟酌,耳边始终回响着导师的话语,“我们所有的研究都必须是对国内日语教学和研究有帮助有价值的”。

此外,本书还得到了答辩委员会的吴大纲老师、季林根老师、许慈惠老师、吴佩老师和庞志春老师的恳切建议和悉心指导,在此深表感谢。当然还有在身边默默支持我的家人和朋友们。同时必须感谢师母的悉心照顾,感谢导师和师母无微不至的关怀。

所有的这些,都是我一路走来的动力,也深感不能辜负大家的期望,鞭策自己要不断努力。博士的答辩、论文的完成、书稿的出版,与其说是一个终点,不如说是一个新的起点。对于这个课题,还有很多需要去进一步改进和深入研究的地方,谨以此抛砖引玉,希望大家不吝指正。

本书属于上海外国语大学日语重点学科建设规划项目“日语句中‘体’的使用——与句末‘体’相比较”以及上海外国语大学青年科研创新团队项目“基于日语学习者语料库的二语习得研究”的研究成果。本书的出版获得上海外国语大学海富通资助出版奖的资助,在此深表感谢!

陆 洁

2013年4月

目 次

第一章 序論	1
1.1 先行研究の概観	1
1.2 本研究の対象、目的と用語	24
1.3 本研究の位置づけ	27
1.4 本研究の構成	29
第二章 連体修飾節におけるアスペクトの意味分類	30
2.1 非過去完成相「スル」	30
2.2 過去完成相「シタ」	46
2.3 継続相「テイル(タ)」	55
2.4 まとめ	65
第三章 動詞によるアスペクト表現形式の使用制限	68
3.1 外的運動動詞によるアスペクト表現形式の使用制限	68
3.2 内的情態動詞によるアスペクト表現形式の使用制限	93
3.3 状態動詞によるアスペクト表現形式の使用制限	98
3.4 性質の属性動詞によるアスペクト表現形式の使用制限	152
3.5 動詞によるアスペクト表現形式の使用制限の文末との 相違点	173
第四章 後続名詞によるアスペクト表現形式の使用制限	177
4.1 特性名詞	177
4.2 普通名詞	209
第五章 副詞的成分による使用制限	219
5.1 時間副詞的成分によるアスペクト表現形式の使用制限	219
5.2 様態副詞的成分	228
5.3 その他の副詞的成分	233
5.4 まとめ	236

第六章	語用的條件によるアスペクト表現形式の使用	238
6.1	コンテキストによるアスペクト表現形式の使用条件	238
6.2	地の文の場面設定によるアスペクト表現形式の使用条件	246
6.3	言外の意味によるアスペクト表現形式の使用条件	256
第七章	結論	258
7.1	アスペクトの意味分類および文末との相違点	258
7.2	構文要素によるアスペクト表現形式の使用制限	263
7.3	語用的條件によるアスペクト表現形式の使用	270
参考文献		272
用例出典		276

第一章 序 論

日本語動詞アスペクトの問題は昔から注目を集めており、それに関する先行研究が数多く存在する。この章では、日本語の動詞のアスペクトに関する研究及び連体修飾節のアスペクトに関する研究を概観した上で、本研究の位置づけ及び内容構成を明確にする。

1.1 先行研究の概観

本節において、連体修飾節におけるアスペクトの意味分類、表現形式の使用制限に関する先行研究を概観する。

1.1.1 アスペクトの意味と表現形式の体系的捉え方

アスペクトとは一体何かについて学者によってその捉え方がさまざまである。金田一(1955)では現代日本語動詞のアスペクトを「動作相」と「状態相」の対立として考察した。その後、奥田(1977)では「シテイル」形を「継続相」と呼び、それに対する「スル」形を「完成相」と名づけ、アスペクトの表現形式と意味を統一させ、両者の対立によってアスペクト体系がなされていると見た。それによればテンス・アスペクトの意味と表現形式の統一を表すものである。次の表で表すことができる。

テンス・アスペクトの意味と表現形式の統一した表

アスペクト テンス	完成相	継続相
	スル	シテイル
非過去		
過去	シタ	シテイタ

それ以来、多くの研究は奥田(1977)の捉え方を受け継ぎ、大いに成果を収めている。そして、寺村(1984)は三段階的にアスペクトを取り上げ、基本的アスペクトから、アスペクトにかかわる派生的形式にかけてアスペクト体系の確認を発展させてきた。

一次的アスペクト：スル(未然)とシタ(已然)

二次的アスペクト：テイル、テアル、テシマウ、テクル、テイク

三次的アスペクト：～始める、～つつある、～おわる、～あげる、～込む、～きるなど①

工藤(1995)は文レベルの考察にこだわらず、文と文の結合としてのコンテキストから動詞のアスペクト意味とテンス意味を分析し、「完成性」と「継続性」のほかにパーフェクト性についても詳しく考察した。

パーフェクトというのは「ある設定された時点において、それよりも前に実現した運動がひきつづき関わり、効力を持っていることを表している」②ことであると工藤(1995)はその定義を規定している。工藤(1995)は次の表で派生的アスペクトの意味を取り入れている。

派生的意味を取り入れたアスペクトの意味の表③

アスペクト	基本的意味	派生的意味	
スル	完成性		反復性
シタ	完成性	パーフェクト性	反復性
シテイル	継続性	パーフェクト性	反復性
シテイタ	継続性	パーフェクト性	反復性

このように、アスペクトの意味と表現形式の統一から出発し、基本的アスペクトの表現形式から三段階にわたったアスペクトの表現形式まで、一つの文からコンテキストまで捉えたアスペクト体系の確認を遂げてきた。

以上のように、アスペクトを体系的に捉えようと同時に、改めてアスペクトの定義、とりわけ各種アスペクト表現形式の意味確認も学者の方々によって考えられてきた。鈴木(1972)はアスペクトを「すがた」とし、動詞のすがたとはおおまかにいって、動詞の表す動きのどの過程的な部分をとって問題にするかという文法的なカテゴリーだと指摘している。また、

① 寺村(1984: 119～182)によってまとめたものである。

② 工藤(1995: 99)によるものである。

③ 工藤(1995: 97)によるものである。

奥田(1977)は完成相を「ひとまとまりの動作をさしだすこと」として、継続相を「継続のなかにある動作をさしだすこと」として捉えている。高橋(1985)では以上の立場に立ち、「スル」、「シタ」、「シテイル」と「シテイタ」形のアスペクトとテンスを詳しく記述した。完成相の持つ基本的アスペクト意味は「動詞の表す動作(広義)、または、その一定の局面を、分割することなく、始発から終了まで含めて、まるごとのすがたでさしだすことである」とし、継続相は「動詞のさししめす動作がその動詞のあらわす動作や変化の過程の持続過程をなす局面の中にあるすがたをさしだすことである」^①と述べた。

一方、これまでの研究はその多くが文末におけるアスペクトの意味と表現形式について考察してきたが、文中における連体修飾節のアスペクトの表現形式と意味の考察については、まだまだ体系的に考えたものがないと思う。

本研究は、これまでのアスペクトの定義と表現形式と意味体系に関する考えを踏まえ、連体修飾節におけるアスペクトの表現形式と意味を考察することにする。

1.1.2 連体修飾節におけるアスペクトの意味に関する先行研究

連体修飾節におけるアスペクトの表現形式と意味の確認は必ずしも文末とは一致であると思えない。

現在、盛んに行われている文末のアスペクト研究に比べてみれば、連体修飾節における研究はかなり立ち遅れている。数が少ない連体修飾節のアスペクト研究は主としてアスペクト表現形式の使用に関するものであるが、アスペクトの意味にかかわる研究はさらに少なくなるように思われる。一般に、連体修飾節のアスペクトの意味確認を文末と同じように扱われるのであるが、それは必ずしも一致したものではないということは、すでに一部の研究によって指摘されている。

文末に関する先行研究は主に完成相と継続相のように分けながら考察するものである。が、連体修飾節においては文末とまったく同じであるかについて、『日本語教育事典』では松下(1952)、三矢(1952)などの説は以下のようにまとめた。

① 高橋(1985: 85)によるものである。

「スル」「シタ」の使い分けの本質は、テンスではなく、未完了か完了か、言い換えると、アスペクト性格のものである^①。

また、寺村(1952)も似たような論述をしている。

従属節^②の述語として使われる動詞の形は、テンスではなくて、未完了か完了か、つまり、主文末の動詞が表すときを基準にしてアスペクトをあらわしていることが多いが、これは多くの外国学習者にとって難しいものの一つである^③。

高橋(1994)では、完成相「スル」と「シタ」のアスペクトの意味を別々に検討している。それは単にテンス的にとり扱うのではなく、アスペクト的な対立がなされていることを指摘した。

連体修飾節の持つ、こういう終止形からのズレは、いわゆる助動詞「た」の用法としてそうなるのではなくて、動詞の現在形「する」や過去形「した」が、一定の条件のもとで、連体的に使われることによって起こってくる、あるいは、残ってきた現象であると考えるほうが妥当である。……連体的な用法における《する—した》の対立は、単に《現在・未来—過去》というテンス的な対立だけでなく、《進行—状態》というアスペクト的な対立の面がつよくあらわれ、また、ときに共通の状態性をあらわしもして、終止的な用法における対立とかなり異なる^④…

つまり、連体修飾節における「シタ」はアスペクト的に捉えるべきだということである。

連体修飾節におけるアスペクトの意味分類については、高橋太郎の説がもっとも代表的なものである。高橋(1994)は連体修飾節の「スル」と「シタ」のアスペクト意味について次のようにまとめている。

① 『日本語教育事典』(1952: 189)によるものである。

② 従属節は連体修飾節や接続節、引用節などを含む、文末と対応するものである。

③ 『日本語教育事典』(1952: 190)によるものである。

④ 高橋(1994: 59)によるものである。

「スル」のアスペクトの意味

- a) 未来の動作を表す
- b) 現在の動作の進行を表す
- c) 現在の状態を表す
- d) 動作がくりかえしあらわれることを表す
- e) 動作を潜在的な属性として表す

これらのアスペクトの意味はそれぞれ、次の例に対応する。

- a) で、二人は海外から来る返事を待った。 未来の動作
- b) ドアの外にさる彼の後姿を眺めながら、真知子は考へた。 現在の動作の進行
- c) これは鎌倉から来る道だ。 現在の状態
- d) そこにいたのが時々見かける伸子だとわかると 動作のくりかえし
- e) 腰掛けて休む粗末な茶屋もある。 潜在的な属性

そして、連体修飾節における「シタ」のアスペクトの意味は次のようにまとめている。

- a) 過去の動作・作用・状態を表す
- b) 過去の動作・作用の結果が現在に残っていることを表す
- c) 状態を表す

これも以下のように例を挙げている。

- a) 先に弾いた二人よりもっと立派にできたとしても 過去の動作・作用・状態
- b) 森の中に近頃できた茶屋 過去の動作・作用の結果が現在に残っている
- c) よく似た老婦人が 状態

一方、文末における完成相のアスペクトの意味については、高橋(1985)は「動作のまるごとのすがた」「進行過程のなかにあるすがた」「状態の持続のなかにあるすがた」「アスペクトからの解放」のように分けている。そのうち、「進行過程のなかにあるすがた」というアスペクト意味は主に移動をあ

らわす動詞による制限や実況放送などのような語用的条件による制限などを受けており、典型的なアスペクトの意味ではないという^①。高橋は文末と連体修飾節との比較を通して、アスペクトの意味における相違点をまとめている。

高橋説による文末と連体修飾節における完成相の
アスペクトの意味の比較表

相別	位置	アスペクトの意味					
完成相 (スル・シタ)	文末	まるごと	進行 ^②		状態		解放
スル	連体	未来の動作	進行		状態	繰り返し	属性
シタ	連体	過去の動作		結果	状態		

上で示したように、連体修飾節におけるアスペクト意味の項目が対応した文末とかなり異なっていることがわかる。「進行」と「結果」という二つのアスペクトの意味は文末に現れないものもあれば、状態、属性と解放などの意味においてもずれが現れている。

高橋氏は以前の研究成果をうまく取り入れた、すぐれた意味分類を示しており、アスペクトの研究に大きく貢献したといえる。本研究は高橋氏の分類によるところが大きい。ただし、氏の研究には不十分なところがあると思う。

上記の高橋氏のアスペクトの意味分類に含まれないものがある。例えば、

A 探すところに、彼女はいなかった。

B この奥さんは、新田の小母さんが負傷するところを眼前に見たそうだ。

C 聞くところによれば、

① 高橋(1985)によってまとめたものである。

② 高橋(1985)によって非典型的な存在として、その他の意味と区別するために、斜体にしたのである。

D 彼女の額に落ちるやわらかい髪の毛を掻き揚げると、形のいい小さい耳たぶをわしづかみにした。

E 公園で遊んだ時、友達に出会った。

のようなものである。Aの「探すところに」は過去の動作であるが、「スル」で達成後というアスペクトの意味を表す。Bの「負傷するところ」は進行持続と異なる目前のまるごとを表す。Cの「聞くところによれば」は「スル」で達成後という意味を表す。Dは「スル」で結果持続を表す。Eの「遊んだ時」はテンス的に捉える過去の達成後を表す。つまり、氏の連体修飾節のアスペクトの意味分類はまだ完備したものではない。詳しいアスペクトの意味分類について、第二章を参照されたい。したがって、本研究では連体修飾節におけるアスペクトの意味をさらに詳しく分類する必要があると思われる。

また、高橋氏はアスペクトの表現形式の継続相については触れていない。文末との比較研究が欠けている。

本研究では連体修飾節におけるアスペクトの意味分類は研究内容の一つである。したがって、本研究は高橋氏の研究を取り入れ、各アスペクト表現形式ごとにそのアスペクトの意味を分類した上、文末との相違点を見出すことを目的とする。

1.1.3 連体修飾節のアスペクト表現形式の使用に関する先行研究

前に述べたように、日本語動詞のアスペクトに関する研究は主に文末に関するものであり、連体修飾節に関するものがかなり立ち遅れている。特に、連体修飾節におけるアスペクト表現形式の使用がどんな制限を受けているのか、そして文末と比較してどんな相違点があるか、といった研究が少なく、体系性が欠けている。

連体修飾節におけるアスペクト表現形式の使用制限に関する先行研究として、寺村秀夫と高橋太郎の論説が挙げられる。

1.1.3.1 寺村説

寺村(1984)では連体修飾をする動詞や形容詞におけるテンス・アスペクトの現れ方がもっとも複雑で、決まりも微妙だと述べると同時に、その全体を通じて働く法則をつかむためには、連体修飾の構造、修飾語の動的性か状態性か、修飾語と被修飾名詞との意味関係などといったことを考慮に入

れなければならないと、指摘した。

氏は以下の各項に分けて、連体修飾節におけるアスペクトの意味と表現形式の使用について述べている。

- ①動的述語の場合—未然と已然の対立
- ②主節のときと同時であることを表す基本形
- ③性状規定的述語の場合—テイルの縮約形シタ
- ④関係規定的動詞の場合—テイルの縮約形スル
- ⑤状態性述語の場合—テンスの同化と独立
- ⑥被修飾名詞の意味特性によって連体の形が固定する場合
- ⑦被修飾名詞の形式化と修飾節の形①

①の項では動的述語の場合、「スル」で未然と同時進行を、「シタ」で已然を表している。一方、規定的述語の場合、「スル」と「シタ」は「テイル」の縮約形として働く。そして、被修飾名詞からの制限も受けている。それは主にその名詞の特性や形式化によるものである。

次に、例を挙げながら、簡単に紹介しておくことにしよう。動的述語の場合をまずとりあげる。動的述語の「スル」と「シタ」の対立には、テンス的側面と、アスペクト的側面がある。従属節内(文末以外のものをすべて従属節とする)、とくに連体修飾節の場合、テンスの側面は主節に含まれて、アスペクト的側面だけが現れてくる。

動的述語の場合は、基本形をとるか過去形を取るか—は、ほとんどの場合アスペクトの面からの要請によって決まる②。

例えば、次の例では、①の項では「スル」で未然を、「シタ」で已然をあらわすのである。

①A 列車へ乗り込んで、窓から(出した○、出す×)何人かの中に、小杉荒太の顔があった。

① 寺村(1984: 194~216)によってまとめたものである。

② 寺村(1984: 194)によるものである。

①B 葬儀の翌日、清子は東京へ(帰っていく○、帰っていった×)春彦の勤め先の会社の人たち数人を駅へ送っていった①。

また、②の項で、同時関係というテンス的条件のもとで、「スル」で表している。

②物が倒れる音、こずえがざわめく音、雨戸が軋る音が、風雨に混じって聞こえた②。

そして、③の項で性状規定的述語は形容詞的動詞のことであり、「馬鹿げる、似る、やせる、メガネをかける、着物を着る」などがあげられるが、連体修飾節で「シタ」をとるのが普通だと述べている。

③A馬鹿げた話○ 馬鹿げている話×

③B 汚れた包帯を首に巻いた女が座っていたが、巻いている③○

一方、④の項で関係規定語動詞の場合、アスペクト的には特別な存在であり、これらの動詞は主節が過去の事態を表す場合でも、連体修飾節で基本形「スル」をとり、テンスもアスペクトも捨象した、純粋な関係概念を表すものであると述べている。例えば「かかわる、属する、違う、異なる」などがあげられる。

④全国の八割を占める生産額④

また⑤の項では過去か非過去かを取るには人によって両形とも許容される場合もあれば、そのどちらかがより自然だとされる場合もある。次のAの場合は、両方許容であり、Bはどちらかの一方許容である。

⑤Aそのとき女学生だった/の末娘は工場へ勤労働員にでていた。

① 寺村(1984: 195)による例である。
 ② 寺村(1984: 195)による例である。
 ③ 寺村(1984: 197~198)による例である。
 ④ 寺村(1984: 200)による例である。